

第678回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2025年11月度 ——

◇ 議題

<テレビ番組>

「ぎゅっと」

放送日時：10月9日(木)

第1部/午後4時48分～午後5時50分

第3部/午後6時15分～午後7時

◇ その他

2025年11月17日(月)開催

九州朝日放送株式会社

第678回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2025年11月17日(月) 15時30分～17時10分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 8名

委員長	山根 久資
副委員長	森 慎二
委員	副田 智幸
委員	サーズ 恵美子
委員	小柳 美佳
委員	泗水 康信
委員	林田 真心子
委員	松瀬 萌々香

欠席委員数 0名

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	森 君夫
取締役 報道制作局長	大迫 順平
執行役員 総合編成局長	柴田 高宏
報道情報局 局次長	野村 友弘
報道情報局 コンテンツ戦略部 部長代理	河相 大輔

(番組チーフプロデューサー)

総合編成局次長 兼 番組審議会事務局長	武藤 礼治
番組審議会事務局 (総合編成局)	松永 俊郎

4. 議題

(1) テレビ番組「ぎゅっと」

放送日時：10月9日(木) 第1部/午後4時48分～午後5時50分

第3部/午後6時15分～午後7時

(2) 11月・12月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告

(3) 10月 視聴者・聴取者応答状況の報告

(4) その他

5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 夕方の情報番組として、全国とローカルのニュース、エンタメ、クイズ、天気、特集、生活情報など、様々な情報が入った王道の構成で、幅広い層に受け入れられる内容だった。
- 他局でも中継やグルメ情報は多く扱われるが、「ぎゅっと」では特集がとても作り込まれており、他との差別化が十分に図られていると思った。
- 女性アナウンサー2名を中心とした進行が新鮮で、特に細谷めぐみアナウンサーに親近感を持ち好感を抱くという視聴者が多いのではないかと感じた。
- 番組のやわらかな雰囲気、慌ただしい夕方の時間でも安らぎを感じさせてくれた。
- 地域に寄り添った話題を長尺でゆっくり伝えていく点に好感が持てた。地元のニュースや生活に役立つ情報、家庭や地元スポットをあてた特集も充実していた。
- ニュースの深掘りや背景説明、全体的な数値を見せるなどの工夫で、人ごとではなく身近なこととして関心を持てるように工夫されていた。
- イラストや表で分かりやすく表現されたフリップが多用されていた点も良かった。
- 中学校の校内ラジオや生産者応援企画「ワンファーム」など、社会性・地域性の高い企画は共感をもって見る事ができた。
- 「蚊に関するうわさの〇×クイズ」や「ぎゅっと2択」などのクイズや「シンクロチャレンジ」など視聴者参加型のコーナーがファン作りや情報提供につながると思った。
- 流産当事者のメッセージ展など、多様な時事ニュースや社会課題と考えられるものが優先して取り上げられている点が評価できた。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- コメンテーターがあまり有効に活用されていないのではないかと感じた。
- ニュースでの事案の軽重の基準が分かりにくかった。また、選挙に関するニュースでは、報道の平等性を巡って問題になる可能性を懸念した。
- 「トクリュウ」など、犯罪であることが薄まりそうなフレーズが多用されることに疑問を感じた。

- 第1部と第3部でニュースなど重なったものがあり、視聴者が変わらない場合、同じ情報が二度あることは無駄な時間に感じられるのではないかと。
- ワンファームの企画で「女性養鶏家」という言葉が用いられたが、わざわざ“女性”と強調する意図が分からなかった。
- 校内ラジオの特集で、生徒の匿名アンケートの学年、組、名前、直筆部分が確認できる映像が映り、「匿名」への配慮が欠けていると感じた。
- 同じトピックを伝える際に、2回目も初めてのように驚きながら伝えるテレビ的演出は、自然体で伝えた方が信頼・安心感を得られるのではないかと感じた。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、制作担当者からは、

- 「ぎゅっと」は、いつもの定食屋のいつもの料理のように、視聴者に「ないと寂しい」と思われる存在を目指している。各局が激しく競い合う夕方帯にKBCが最後発で参戦した挑戦的なプロジェクトではあるが、必ずトップシェアを取りたいと考えている。
- 夕方の慌ただしい時間帯に「ながら」で視聴いただくため、ゆっくりとした雰囲気は重要であり、そこを評価いただいたのはすごく嬉しい。一方、話題によっては番組のカラーが合致していない部分もあるので、引き続きデザイン変更しながら見やすさを追求したい。
- 「コメンテーターが有効に活用されていない」というご指摘については検討が必要だと感じた。コメンテーターは地域とのつながりという点で重要な存在であり、各々の得意不得意を考慮しながら、しゃべるタイミングを日々の放送の中で考えていきたい。
- ニュースは鮮度が大事なので、ローカルニュースは少々粗くても優先的に取り上げていく。全国ニュースは、夕方初めてニュースに触れる視聴者のために注目すべきものを選定している。
- 従来の選挙報道が公平公正に務めるあまり、メディアが情報を出さずネットで偏った情報が流れたことに危機感を感じ、「時間的公平性よりも質的公平性を持ち伝える」と方針を変えて報道している。
- 「トクリュウ」などの略語使用については、キャッチーさのため使ってしまうが、今後は「ストレートニュース」用の尺ありきで表現方法を考えるのではなく、一つのニュースは時間をかけて丁寧に伝えることで、顧客満足度を上げたいと考えている。
- 第1部と第3部で話題が重なる場合もあるが、番組の最初から最後まで見る人はいないという割り切った考えからではなく、忙しい夕方の視聴者が途中でチャンネルを変えることを前提に、重要な情報を繰り返し伝えている。
- 校内ラジオの特集では、それほどセンシティブな内容ではなかったが、筆跡により匿名性が失われる可能性もあったかもしれない部分は、配慮が足らなかったと反省している。

などの説明をしました。